

認定こども園設置趣旨

東筑紫短期大学附属幼稚園は65年の長い保育の伝統を有し、本学園の建学の精神・「筑紫の心」・「よいこのころはちくしのころ」に基づいた保育を行ってまいりました。

「幼稚園教育要領」を基本に、命の大切さと心と体の健全な発達成長を目的としてきました。子どもたちの四つの心の芽「勇気・親和・愛・知性」を大きく育てていこうというのが私たちの教育の目標であります。

言うまでもありませんが、「勇気・親和・愛・知性」は、お母さんのおなかに生命が宿った時から発芽・成長しています。

このことを踏まえれば、私たちは1歳児・2歳児の保育にも取り組み、乳児期・妊娠期を含む「子育て支援」を行い、『ちくしのころ』の教育を目指さなければなりません。また、地域に開かれた身近な園となれるように、同一学園内の九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の教職員と連携し、大学の専門性をいかした子育て支援や食育の推進も図っていかねばなりません。

二十一世紀の少子高齢社会は多くの問題を抱えております。「子ども・子育て支援新制度」創設の背景には、核家族化の進展、地域のつながりの希薄化、共働き家庭の増加、兄弟姉妹の数の減少など子育てや子どもの育ちをめぐる環境の大きな変化があげられます。またその中で、「待機児童」の問題も生じています。

北九州市の待機児童数は今年3月の時点で283人、特に3歳児未満が多いという状態にあります。国や地域を挙げて、子ども・子育てへの質の高い支援を強化実現するために乳幼児期の教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していくことが要請されています。

こうした本園の教育的視点と社会のニーズに応えるべく、この度東筑紫短期大学附属幼稚園は、平成29年4月より発展的に「幼稚園型認定こども園」として生まれ変わることにあります。

平成28年9月吉日
学校法人東筑紫学園
認定こども園設置準備室
室長 室井 廣一